

# ボランティア活動に関する 県民意識調査

## 報告書

平成 21 年 4 月

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

## 目次

はじめに	1
調査の概要	2
調査結果	
1 調査結果の概要	5
2 単純集計結果	
・基礎属性	7
・ボランティア活動への関心	10
・ボランティア活動に対するイメージ	11
・参加したい分野	14
・ボランティア活動の経験	16
・ボランティア活動を行うために必要なもの	17
3 詳細な分析	
・クロス集計	19
・因子分析	28
・相関	30
・ノンパラトリック検定	31
自由記述	43
調査票	49

## はじめに

1995年(平成7年)の阪神・淡路大震災時、全国から多くのボランティアが駆け付けたことから、その年は「ボランティア元年」と呼ばれ、改めてボランティアの重要性が再認識され、以来国民のボランティア活動への関心が年々高まってきております。

その一方で、平成20年3月31日に発行された「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」報告書では、実際にボランティア活動をしたいと考えていても、「自分がボランティアとして何ができるのかわからない」、「どのように参加し、行動したらよいのかわからない」、という人も多く、ボランティアをしたい人が活動を始めやすい環境が十分整っているとは言えないと指摘しています。

そこで、このたび県民2,000名に御協力をお願いし、静岡県民のボランティア活動への参加経験や、ボランティアのイメージ、関心度等について、調査を実施しました。

本調査の実施により、部分的ではありますが、静岡県民のボランティア活動への意識・ニーズを把握することができました。本調査の結果を活用し、今後も静岡県におけるボランティア活動がより一層推進されるよう、ボランティアセンターの機能強化・仕組みづくりなどに取り組んでまいります。

短期間にもかかわらず、多くの県民の皆様の御協力により、ここに結果を報告することができました。本報告書が関係機関の皆様の一助となれば幸いです。御支援御協力をいただきました県民の皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

## 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、静岡県民のボランティア活動への関心とイメージ、活動の経験を把握するとともに、意識の高揚を図り、今後のボランティア活動の推進の取り組みと広く県民にボランティア活動の広報啓発に資する目的で実施した。

本調査では、基本属性と各項目の関連性により、ボランティア活動の振興策を明らかにするとともに、ボランティアセンターの機能充実を図る目的で、下記の項目を中心に取り組む。

- (1) 県民のボランティア活動経験を把握する
- (2) 県民のボランティア活動のイメージを明らかにする
- (3) ボランティア活動に必要と感じている物を浮き彫りにする

### 2 実施主体

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

(調査協力・監修) 静岡福祉文化実践研究所 平田厚 氏

### 3 調査対象

20歳以上の静岡県民 2,000人

### 4 調査方法

- (1) 標本抽出は層別無作為抽出※とし、抽出した静岡県内の各市区町の住民基本台帳から無作為抽出を行う。
- (2) 調査方法は質問紙を用いた郵送調査とする。

※層化二段抽出法<sup>1</sup>

・二段抽出法(多段抽出法)

⇒サンプリングを二回に分けて、第一段階で調査する地点を選び(第一次抽出単位)、第二段階では選ばれた地点の中から個人(第二次抽出単位)を選びます。

・層化二段抽出法

⇒異なる特性を持つ地域を偏りなく選ぶために、初めに地域を人口規模とか産業構造などの指標で層に分けておき、各層から地域を抽出した後で第二次抽出を行います。

### 5 調査期間

- (1) 平成20年3月14日～31日
- (2) 調査時点 平成20年2月1日

<sup>1</sup> 坂田周一『社会福祉リサーチ』有斐閣アルマ 2003 P131

## 6 調査内容・活用方法

県民のボランティア活動経験、イメージ、関心及びボランティア活動に必要と感じているものについて尺度形式により回答を求め、基礎属性及び各項目間の関係を明らかにする。(例：ボランティア活動状況と活動に必要と感じているもの関係など)

このことにより、ボランティア活動を振興させていくために何が必要であるのか等を実証的に把握し、ボランティアセンター機能の充実や、ボランティアへの関心をもちながらも活動を行っていない潜在層への働きかけなどの方策検討に資する。

## 8 統計解析

統計解析ソフト SPSS を使用し、集計及び解析を行う。

## 本調査の意義

静岡福祉文化実践研究所 平田厚

社会福祉領域では、「社会福祉基礎構造改革」の議論とともに、平成12年の社会福祉法の改正により、住民主体の地域福祉の推進が進められています。

さらに、今日では、「平成の大合併」により、市町は大きく変化を見せ、あらためて、住民の地域コミュニティづくりの課題も浮き彫りになっており、小地域における生活圏での支え合いのあり方が問われています。

また、教育改革が進められている中で、平成18年12月の教育基本法の改正とともに、住民の地域活動参加を促進する「社会教育領域」においては、地域社会や学校、家庭、個人の状況変化に応じ、積極的な地域コミュニティ形成の働きかけが行われています。

こうした「福祉」と「教育」の中央施策からも、大きな改革に、改めて住民の主体性を問いかけています。

一方、今日、身近な地域社会に目を向けますと、さまざまな地域課題や人々の多様な生活ニーズが浮き彫りになっています。

このたびの調査報告が、今後の静岡県におけるボランティア活動の推進に大きく反映し、今日的な地域社会のさまざまな課題解決につながり、「共生社会」の実現の一助となることを願っています。

## 調査の結果

### 調査結果の概要

#### 1 回収率

603/2000 30.2%

#### 2 ボランティア活動への関心 (詳細:10 ページ)

77.4%が、‘関心がある’と回答した。(しかし、前述の回収率に留意する必要がある。)

#### 3 ボランティア活動に対するイメージ (詳細:11 ページ)

‘そう思う’と回答した人が多かったもの

- ①「社会にとって必要なものである」 97.2%
- ②「自らすすんで行うものである」 94.5%
- ③「思いやりがあるものである」 94.2%

#### 4 参加したいボランティア活動 (詳細:14 ページ)

13 項目中、回答が多かったもの(複数回答)

- ①「こどもの健全育成に関する活動」 252 人
- ②「環境保全・自然保護に関する活動」 250 人
- ③「社会福祉に関する活動」 223 人

#### 5 ボランティア活動の経験 (詳細:16 ページ)

全く経験がないと回答した人が 48.9%であり、何度か経験がある人が 44.4%、定期的に活動している人は 6.1%にとどまった。

#### 6 ボランティア活動を行うために必要なもの (詳細 17 ページ)

11 項目中、必要であると回答した人が多かったもの

- ①「ボランティア活動の内容についての情報」 96.0%
  - ②「ボランティアしたい人とボランティアを必要とする人を結ぶ仕組み」 93.9%
- 「ボランティア活動の拠点となる場所」 82.9%は 9 番目にとどまった。

## 単純集計結果

### 回収率

抽出した 36 の市区町で調査を実施した。全体の回収率は 30.2%であった。

通し番号	市郡名	標本数	回答数	回収率
1	静岡市葵区	138	45	32.6%
2	静岡市駿河区	115	27	23.5%
3	静岡市清水区	130	41	31.5%
4	浜松市中区	170	48	28.2%
5	西 区	100	35	35.0%
6	浜 北 区	100	33	33.0%
7	天 竜 区	48	13	27.1%
8	沼津市	123	33	26.8%
9	富士宮市	60	21	35.0%
10	富士市	125	36	28.8%
11	伊東市	38	7	18.4%
12	熱海市	25	5	20.0%
13	御殿場市	45	16	35.6%
14	下田市	15	3	20.0%
15	伊豆市	19	5	26.3%
16	裾野市	40	6	15.0%
17	伊豆の国市	25	9	36.0%
18	賀茂郡河津町	25	9	36.0%
19	田方郡函南町	30	12	40.0%
20	駿東郡小山町	25	7	28.0%
21	富士郡芝川町	20	7	35.0%
22	駿東郡長泉町	40	18	45.0%
23	焼津市	65	17	26.2%
24	藤枝市	70	26	37.1%
25	島田市	50	20	40.0%
26	牧之原市	30	10	33.3%
27	庵原郡由比町	20	9	45.0%
28	志太郡岡部町	20	6	30.0%
29	志太郡大井川町	20	6	30.0%
30	磐田市	79	26	32.9%
31	掛川市	60	15	25.0%
32	袋井市	40	10	25.0%
33	湖西市	20	6	30.0%
34	御前崎市	25	5	20.0%
35	菊川市	25	5	20.0%
36	浜名郡新居町	20	5	25.0%
	地域不明		1	
	総計	2000	603	30.2%



## 1 性別

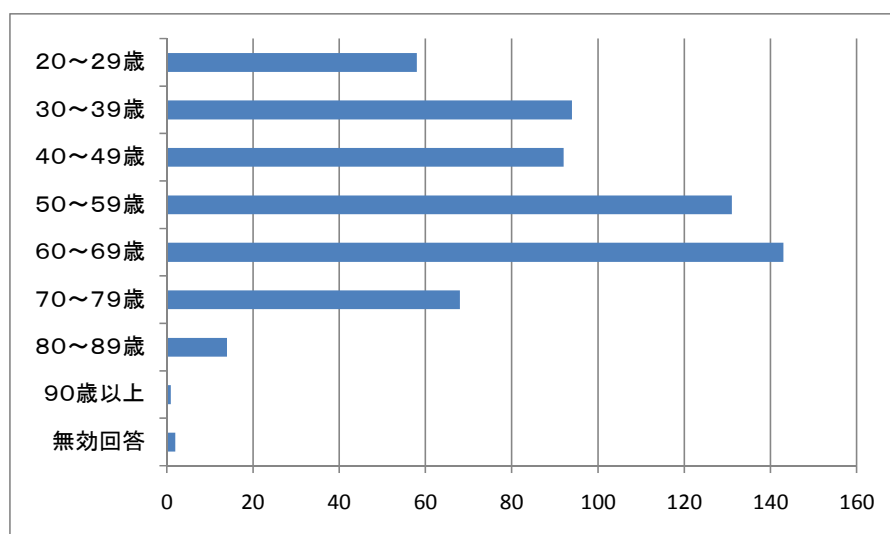
	回答者数	%
男性	263	43.6%
女性	340	56.4%

回答者の性別は、やや女性が多かった。

## 2 年齢

	回答者数	%
20～29歳	58	9.6%
30～39歳	94	15.6%
40～49歳	92	15.3%
50～59歳	131	21.7%
60～69歳	143	23.7%
70～79歳	68	11.3%
80～89歳	14	2.3%
90歳以上	1	0.2%
無効回答	2	0.3%

回答者の平均年齢は 52.2 歳であった。(標準偏差※15.75)



### ※標準偏差<sup>2</sup>

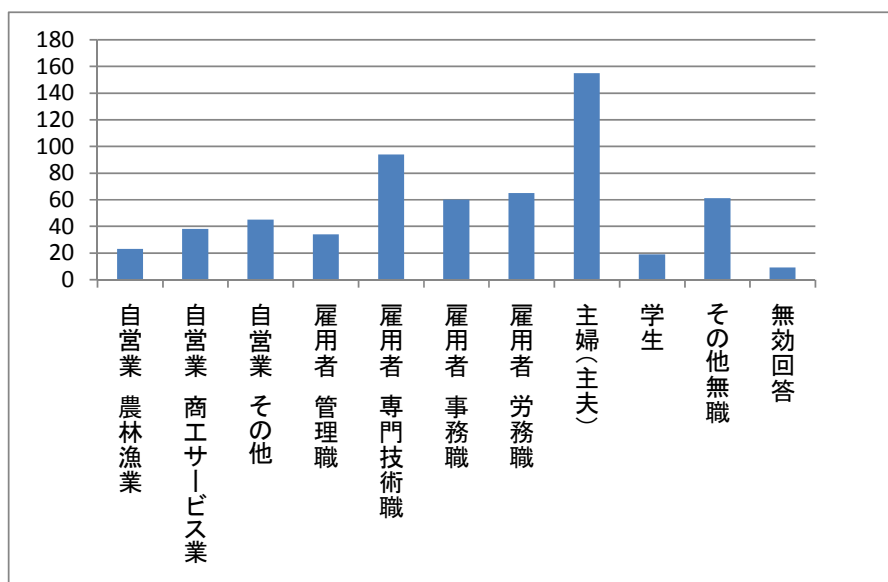
調査データのばらつき具合を知る指標。

個々のデータが、平均からどれ位ばらついているかを表す指標として、「データの平均と個々のデータの差(これを偏差といいます)」の2乗の平均と、その平方根が考えられました。このときの差の2乗の平均を「分散」、その平方根を「標準偏差」といいます。

<sup>2</sup> 坂井隆「範囲と標準偏差とは」『実務入門 図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』  
日本能率協会マネジメントセンター 2003 P128

### 3 就労形態

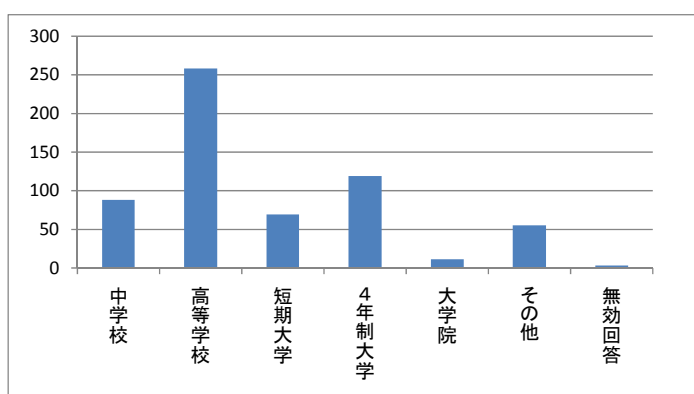
	回答者数	%
自営業 農林漁業	23	3.8%
自営業 商工サービス業	38	6.3%
自営業 その他	45	7.5%
雇用者 管理職	34	5.6%
雇用者 専門技術職	94	15.6%
雇用者 事務職	60	10.0%
雇用者 労務職	65	10.8%
主婦(主夫)	155	25.7%
学生	19	3.2%
その他無職	61	10.1%
無効回答	9	1.5%



回答者の就労形態は、主婦(主夫)が最も多く、全体の25.7%であった。  
 自営業が計17.6%、雇用者が計42%であった。

#### 4 最終学歴

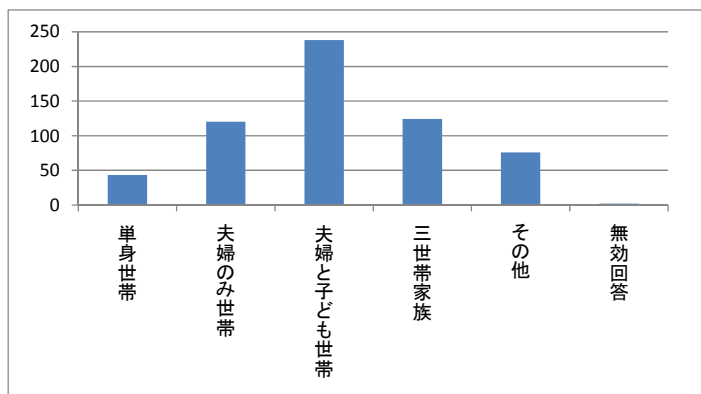
	回答者数	%
中学校	88	14.6%
高等学校	258	42.8%
短期大学	69	11.4%
4年制大学	119	19.7%
大学院	11	1.8%
その他	55	9.1%
無効回答	3	0.5%



最終学歴については、高等学校が最も多く、42.8%であった。

#### 5 家族形態

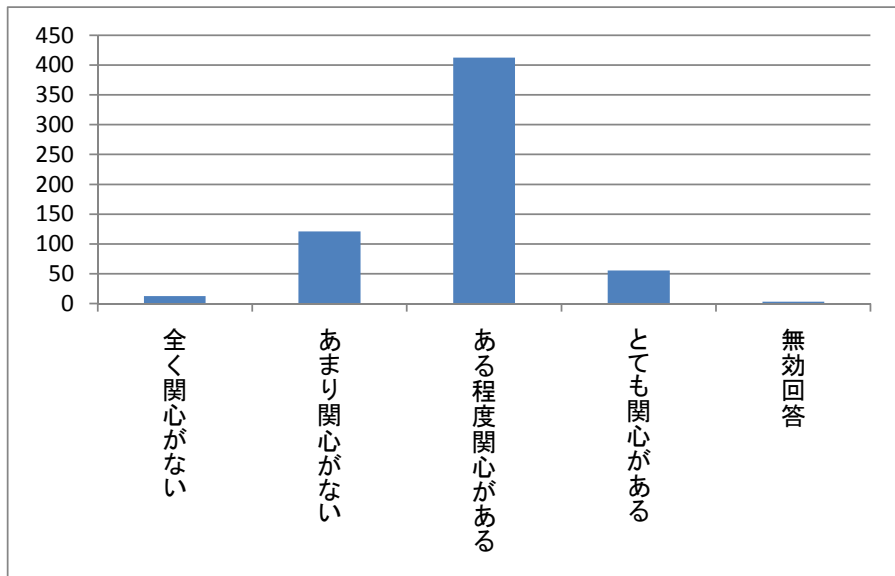
	回答者数	%
単身世帯	43	7.1%
夫婦のみ世帯	120	19.9%
夫婦と子ども世帯	238	39.5%
三世帯家族	124	20.6%
その他	76	12.6%
無効回答	2	0.3%



家族形態については、夫婦と子ども世帯が最も多く、約4割を占めた。

6 あなたのボランティア活動への関心について、お伺いします。

	回答者数	%
全く関心がない	12	2.0%
あまり関心がない	121	20.1%
ある程度関心がある	412	68.3%
とても関心がある	55	9.1%
無効回答	3	0.5%



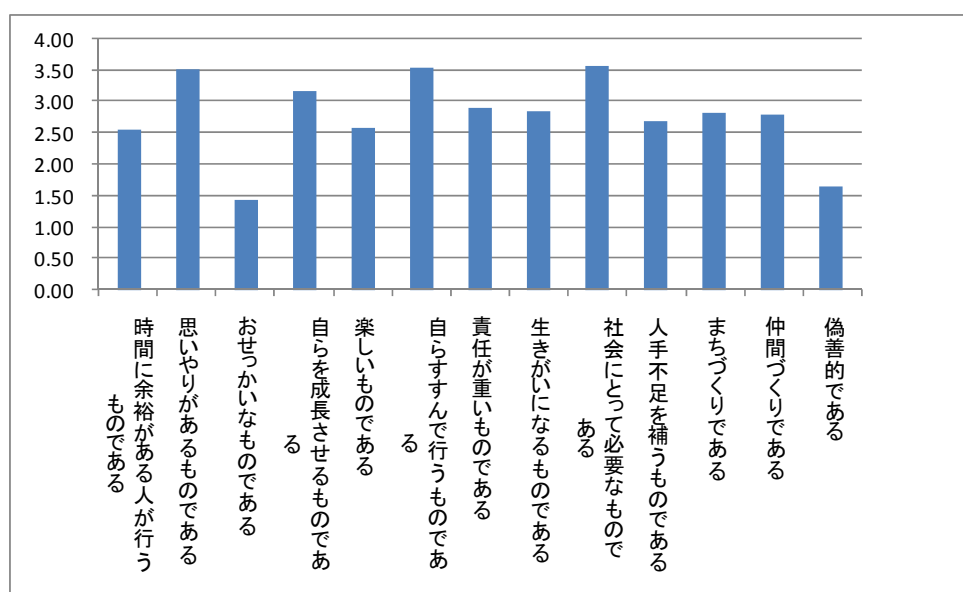
「とても関心がある」「ある程度関心がある」を合わせると 77.4%と高い結果となった。しかしながら、「全くない」「あまり関心がない」の回答は 22.1%と全体の 2 割が、「ボランティア活動」への関心を示していない現状にある。

## 7 あなたのボランティア活動に対するイメージについて、お伺いします。

	平均値	標準偏差	全くそう思わない		あまり思わない		まあまあそう思う		とてもそう思う	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
時間に余裕がある人が行うものである	2.56	0.86	86	14.3%	158	26.2%	291	48.3%	67	11.1%
思いやりがあるものである	3.51	0.64	7	1.2%	27	4.5%	218	36.2%	350	58.0%
おせっかいなものである	1.44	0.63	371	61.5%	199	33.0%	32	5.3%	1	0.2%
自らを成長させるものである	3.18	0.72	15	2.5%	70	11.6%	310	51.4%	208	34.5%
楽しいものである	2.59	0.72	32	5.3%	236	39.1%	283	46.9%	51	8.5%
自らすすんで行うものである	3.55	0.63	7	1.2%	26	4.3%	201	33.3%	369	61.2%
責任が重いものである	2.90	0.85	34	5.6%	150	24.9%	263	43.6%	156	25.9%
生きがいになるものである	2.86	0.76	17	2.8%	172	28.5%	289	47.9%	124	20.6%
社会にとって必要なものである	3.58	0.56	2	0.3%	15	2.5%	217	36.0%	369	61.2%
人手不足を補うものである	2.69	0.86	51	8.5%	190	31.5%	254	42.1%	108	17.9%
まちづくりである	2.82	0.79	30	5.0%	166	27.5%	290	48.1%	116	19.2%
仲間づくりである	2.81	0.79	32	5.3%	165	27.4%	294	48.8%	112	18.6%
偽善的である	1.66	0.76	300	49.8%	219	36.3%	69	11.4%	12	2.0%

全くそう思わない＝1点、あまり思わない＝2点、まあまあそう思う＝3点、とてもそう思う＝4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

13の項目について、それぞれ「全く思わない」から「とてもそう思う」までを4段階に分けて回答を求めた。



(1) 時間に余裕がある人が行うものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」59.4%で、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」を合わせて、40.5%の回答である。

ここでは、生活にゆとりのある人の活動という意識の回答が高い。

今日的な社会にあって、生活のゆとりという、ライフステージにおけるV活動の位置づけがうかがえる。

(2) 思いやりがあるものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」94.2%で、回答者の大半が、V活動に対する行為を「思いやり」と意識している。

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」を合わせて5.7%の回答である。

(3) おせっかいなものである

⇒「全くそう思わない」「あまりそう思わない」を合わせて94.5%の回答である。「まあまあそう思う」「とてもそう思う」5.5%の回答である。この項目では、V活動は、自発的な活動としての意識が大半である。

(4) 自らを成長させるものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると85.9%で、回答者の9割がV活動を自分を成長させるものと意識している。

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」を合わせて14.1%の回答である。

V体験の有無等により、自己を高めていくことの意識の変化が予測できる。

(5) 楽しいものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると55.4%の回答である。

また、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」は44.4%の回答である。

(6) 自らすすんで行うものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると94.5%の回答である。V活動は自発性という意識が高い。

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」は45.5%の回答結果である。

(7) 責任が重いものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると、69.5%と「責任」が求められるV活動の意識が強い

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」は30.5%の回答結果である。

(8) 生きがいになるものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると、48.5%の回答

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」は31.3%と、この項目では、V活動の意識としては、「生きがい」はやや肯定の回答に多い

(9) 社会にとって必要なものである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると、97.2%の回答結果から、V活動は「社会性/連帯性」の意識が大半である。

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の回答は2.8%

(10) 人手不足を補うもの

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると、60%の回答結果である。「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の回答40%とやや、「労働力の補足」の意識が高い

(11) まちづくりである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を併せると、63.7%の回答結果である。「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の回答は32.5%で、約7割が「まちづくり」の役割をあげている

(12) 仲間づくりである

⇒「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を併せると、67.4%の回答結果である。「人間関係づくり」の意識が高い「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の回答は32.7%とやや否定的な回答が多い。

(13) 偽善的である

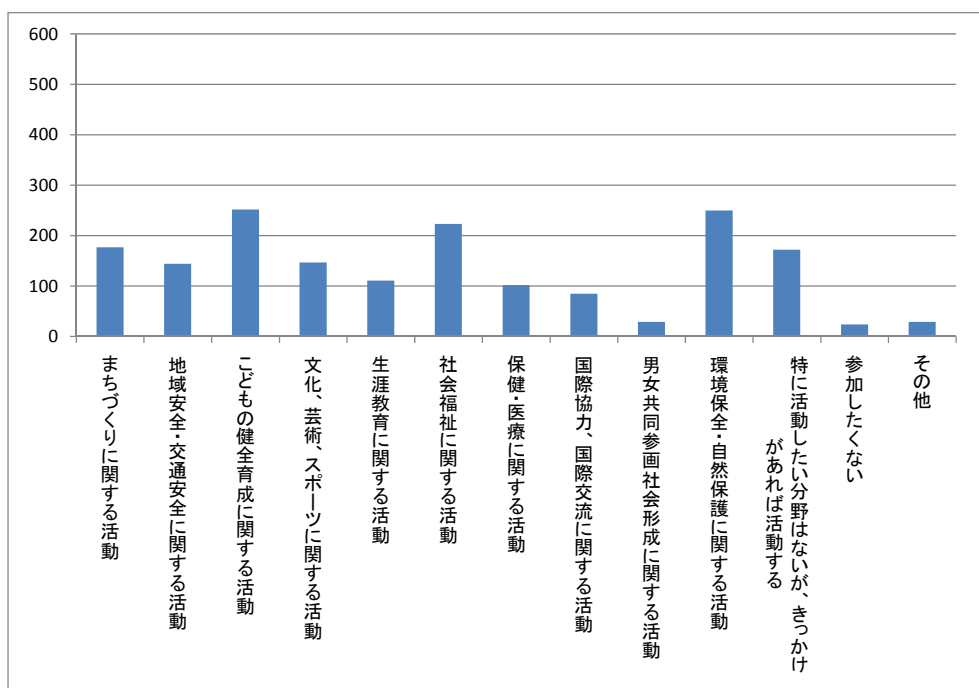
⇒「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の回答は86.1% 「まあまあそう思う」「とてもそう思う」を合わせると、13.4%の回答結果である。

以上、13項目が「ボランティア活動」のイメージが

- ①社会性/連帯性 ②自発性 ③思いやり ④自己実現 ⑤責任感 ⑥まちづくり
- ⑦人間関係 ⑧生きがい ⑨人的確保 ⑩楽しい ⑪ゆとり ⑫偽善行為
- ⑬世話 があげられる

8 あなたが参加したいと考えているボランティア活動は、どのような分野の活動ですか。※複数回答可

	あなたが参加したいと考えているボランティア活動
まちづくりに関する活動	177
地域安全・交通安全に関する活動	144
こどもの健全育成に関する活動	252
文化、芸術、スポーツに関する活動	147
生涯教育に関する活動	111
社会福祉に関する活動	223
保健・医療に関する活動	102
国際協力、国際交流に関する活動	85
男女共同参画社会形成に関する活動	29
環境保全・自然保護に関する活動	250
特に活動したい分野はないが、きっかけがあれば活動参加したくない	172
その他	24
その他	29



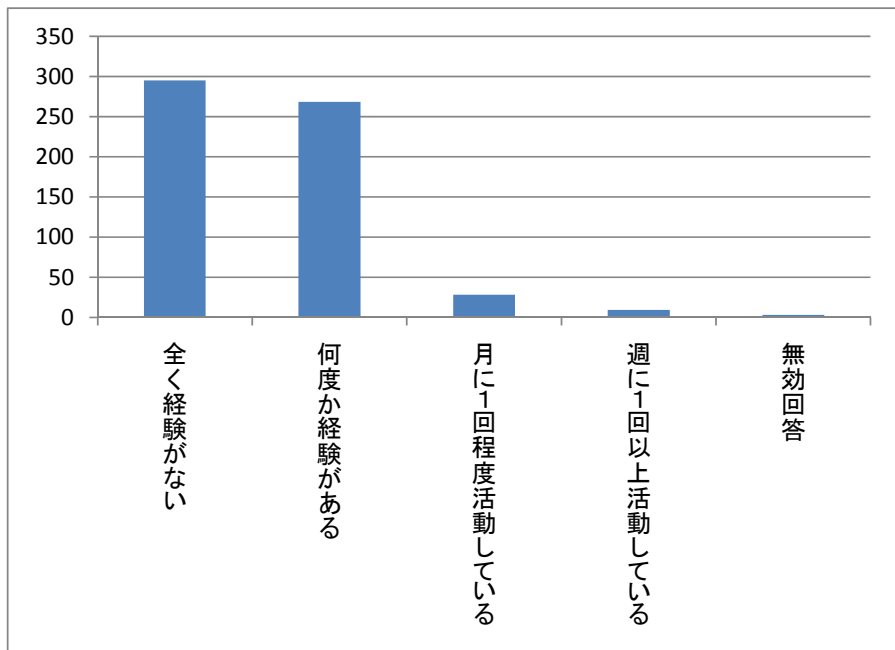


複数回答による結果から、全体において「参加したいV活動」を多い順にまとめると、

- ①こどもの健全育成に関する活動
- ②環境保全・環境保護に関する活動
- ③社会福祉に関する活動
- ④まちづくりに関する活動
- ⑤特になし、きっかけがあれば活動したい
- ⑥文化・芸術・スポーツに関する活動
- ⑦地域安全・交通安全に関する活動
- ⑧生涯教育に関する活動
- ⑨保健・医療に関する活動
- ⑩国際協力・国際交流に関する活動
- ⑪男女共同参画社会形成に関する活動
- ⑫その他
- ⑬参加したくない

9 あなたのボランティア活動の経験について、お伺いします。

	回答者数	%
全く経験がない	295	48.9%
何らかの経験がある	268	44.4%
月に1回程度活動している	28	4.6%
週に1回以上活動している	9	1.5%
無効回答	3	0.5%

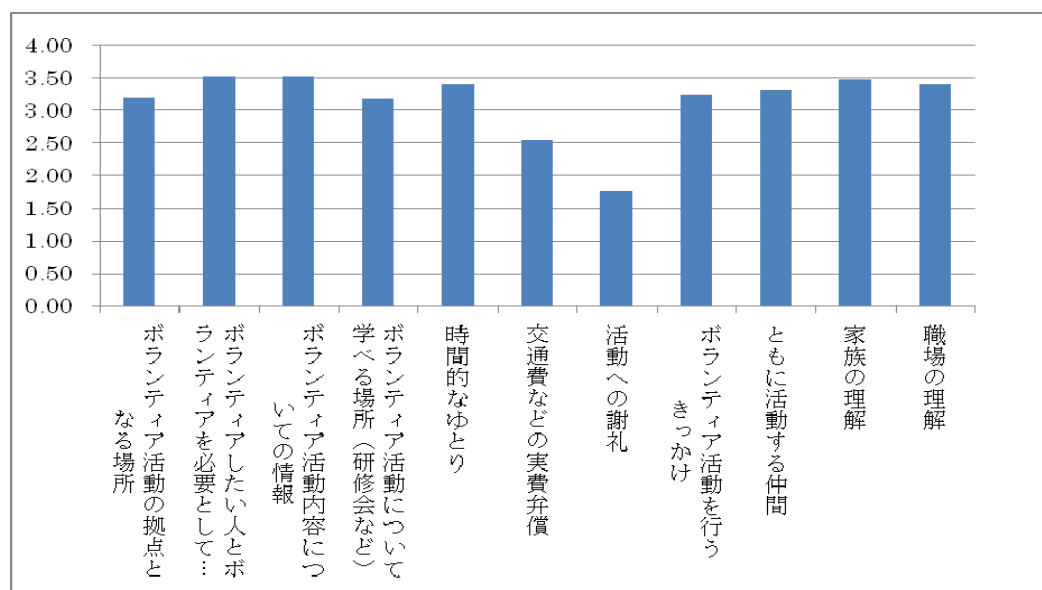


「なんらかの経験がある」50.5%、「まったく経験がない」48.9%と経験の有無は、やや「経験がある」の割合が多い。

10 ボランティア活動を行うために必要なものについて、あなたの考えをお伺いします。

	平均値	標準偏差	全く必要ではない		あまり必要ではない		まあまあ必要である		とても必要である	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
ボランティア活動の拠点となる場所	3.21	0.77	16	2.7%	83	13.8%	257	42.6%	243	40.3%
ボランティアしたい人とボランティアを必要としている人を結ぶ仕組み	3.53	0.64	6	1.0%	31	5.1%	202	33.5%	364	60.4%
ボランティア活動内容についての情報	3.53	0.59	3	0.5%	21	3.5%	233	38.6%	346	57.4%
ボランティア活動について学べる場所(研修会など)	3.18	0.72	7	1.2%	93	15.4%	289	47.9%	213	35.3%
時間的なゆとり	3.40	0.63	3	0.5%	38	6.3%	276	45.8%	286	47.4%
交通費などの実費弁償	2.54	0.86	70	11.6%	217	36.0%	235	39.0%	79	13.1%
活動への謝礼	1.77	0.72	231	38.3%	290	48.1%	68	11.3%	13	2.2%
ボランティア活動を行うきっかけ	3.25	0.68	8	1.3%	60	10.0%	305	50.6%	229	38.0%
ともに活動する仲間	3.31	0.68	8	1.3%	53	8.8%	287	47.6%	255	42.3%
家族の理解	3.48	0.69	11	1.8%	39	6.5%	204	33.8%	349	57.9%
職場の理解	3.40	0.82	25	4.1%	54	9.0%	170	28.2%	340	56.4%

全くそう思わない＝1点、あまり思わない＝2点、まあまあそう思う＝3点、とてもそう思う＝4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。



11 の設問項目ごとに、「積極的ニーズ」「理解ニーズ」「経費ニーズ」などを基にその必要性（「まあまあ必要」「とても必要」）の高い順に考察すると

①ボランティア活動の内容についての情報	96.0%
②ボランティアしたい人とボランティアを必要とする人を結ぶ仕組み	93.9%
③時間的なゆとり	93.2%
④家族の理解	91.7%
⑤ともに活動する仲間	89.9%
⑥ボランティア活動を行うきっかけ	88.6%
⑦職場の理解	84.6%
⑧ボランティア活動について学べる場所	83.2%
⑨ボランティア活動の拠点となる場所	82.9%
⑩交通費などの実費弁償	52.1%
⑪活動への謝礼	13.5%

全体分析から、明らかになっている意識として、「情報提供と収集方法」次には「ボランティアコーディネート機能/V コーディネーター」「V 学習の場」「V 活動メニュー」「V 学習プログラム」「V 活動受入先」「V センター」の必要性が多く回答されている。

対価を求める意識については、「活動の見返り」は問題とする回答が多い。「交通費は無償性」の判断は間違いではないという考え方も一方にはうかがえる。

## 詳細な分析結果

### 1 クロス集計

カイ二乗検定の結果、1%水準で有意差が認められたものは以下のとおり

#### (1) 性別による違い

クロス表

			自らを成長させるものである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とてもそう思う	
性別	男性	度数	9	44	139	71	263
		性別の%	3.4%	16.7%	52.9%	27.0%	100.0%
	女性	度数	6	26	171	137	340
		性別の%	1.8%	7.6%	50.3%	40.3%	100.0%
合計		度数	15	70	310	208	603
		性別の%	2.5%	11.6%	51.4%	34.5%	100.0%

男性に比べ、女性の方がボランティア活動は「自らを成長させるものである」との設問に対して「そう思う」と回答した人が多かった。

クロス表

			楽しいものである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とてもそう思う	
性別	男性	度数	21	121	105	15	262
		性別の%	8.0%	46.2%	40.1%	5.7%	100.0%
	女性	度数	11	115	178	36	340
		性別の%	3.2%	33.8%	52.4%	10.6%	100.0%
合計		度数	32	236	283	51	602
		性別の%	5.3%	39.2%	47.0%	8.5%	100.0%

男性に比べ、女性の方がボランティア活動は「自らを成長させるものである」との設問に対して「そう思う」と回答した人が多かった。

クロス表

			責任が重いものである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とてもそう思う	
性別	男性	度数	23	80	104	56	263
		性別の%	8.7%	30.4%	39.5%	21.3%	100.0%
	女性	度数	11	70	159	100	340
		性別の%	3.2%	20.6%	46.8%	29.4%	100.0%
合計		度数	34	150	263	156	603
		性別の%	5.6%	24.9%	43.6%	25.9%	100.0%

男性に比べ、女性の方がボランティア活動は「責任が重いものである」との設問に対して「そう思う」と回答した人が多かった。

加算表

			生きがいになるものである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とてもそう思う	
性別	男性	度数	10	91	119	42	262
		性別の%	3.8%	34.7%	45.4%	16.0%	100.0%
	女性	度数	7	81	170	82	340
		性別の%	2.1%	23.8%	50.0%	24.1%	100.0%
合計		度数	17	172	289	124	602
		性別の%	2.8%	28.6%	48.0%	20.6%	100.0%

男性に比べ、女性の方がボランティア活動は「生きがいになるものである」との設問に対して「そう思う」と回答した人が多かった。

加算表

			仲間づくりである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とてもそう思う	
性別	男性	度数	21	76	133	33	263
		性別の%	8.0%	28.9%	50.6%	12.5%	100.0%
	女性	度数	11	89	161	79	340
		性別の%	3.2%	26.2%	47.4%	23.2%	100.0%
合計		度数	32	165	294	112	603
		性別の%	5.3%	27.4%	48.8%	18.6%	100.0%

男性に比べ、女性の方がボランティア活動は「仲間づくりである」との設問に対して「そう思う」と回答した人が多かった。

加算表

			Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み				合計
			全く必要ではない	あまり必要ではない	まあまあ必要である	とても必要である	
性別	男性	度数	4	25	94	140	263
		性別の%	1.5%	9.5%	35.7%	53.2%	100.0%
	女性	度数	2	6	108	224	340
		性別の%	.6%	1.8%	31.8%	65.9%	100.0%
合計		度数	6	31	202	364	603
		性別の%	1.0%	5.1%	33.5%	60.4%	100.0%

男性に比べ、女性の方が「ボランティアしたい人とボランティアを必要としている人を結ぶ仕組み」が必要であるとの設問に対して「そう思う」と回答した人が多かった。

## (2) 年齢による違い

加算表

			おせっかいなものである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とても思う	
年齢5	20-25	度数	12	23	5	0	40
		年齢5の%	30.0%	57.5%	12.5%	.0%	100.0%
	26-30	度数	11	9	4	0	24
		年齢5の%	45.8%	37.5%	16.7%	.0%	100.0%
	31-35	度数	25	16	3	0	44
		年齢5の%	56.8%	36.4%	6.8%	.0%	100.0%
	36-40	度数	20	28	4	0	52
		年齢5の%	38.5%	53.8%	7.7%	.0%	100.0%
	41-45	度数	32	11	2	0	45
		年齢5の%	71.1%	24.4%	4.4%	.0%	100.0%
	46-50	度数	28	21	0	0	49
		年齢5の%	57.1%	42.9%	.0%	.0%	100.0%
	51-55	度数	37	26	4	0	67
		年齢5の%	55.2%	38.8%	6.0%	.0%	100.0%
	56-60	度数	48	18	4	0	70
		年齢5の%	68.6%	25.7%	5.7%	.0%	100.0%
	61-65	度数	59	14	1	0	74
		年齢5の%	79.7%	18.9%	1.4%	.0%	100.0%
	66-70	度数	78	25	5	1	109
		年齢5の%	71.6%	22.9%	4.6%	.9%	100.0%
	76-80	度数	15	3	0	0	18
		年齢5の%	83.3%	16.7%	.0%	.0%	100.0%
	80-	度数	5	4	0	0	9
		年齢5の%	55.6%	44.4%	.0%	.0%	100.0%
合計		度数	370	198	32	1	601
		年齢5の%	61.6%	32.9%	5.3%	.2%	100.0%

一概には言えないが、ボランティア活動は「おせっかいなものである」との設問に対し、そう思うと回答した割合は、若年層の方が高い結果となった。

逆に、年齢が高くなるほど、全くそう思わないと回答している割合が高くなる傾向にあった。

加表

			V活動の経験				合計
			全く経験がない	何らかの経験がある	月に1回程度活動している	週に1回以上活動している	
年齢5	20-25	度数	13	27	0	0	40
		年齢5の%	32.5%	67.5%	.0%	.0%	100.0%
	26-30	度数	11	13	0	0	24
		年齢5の%	45.8%	54.2%	.0%	.0%	100.0%
	31-35	度数	19	24	1	0	44
		年齢5の%	43.2%	54.5%	2.3%	.0%	100.0%
	36-40	度数	30	22	0	0	52
		年齢5の%	57.7%	42.3%	.0%	.0%	100.0%
	41-45	度数	19	24	2	0	45
		年齢5の%	42.2%	53.3%	4.4%	.0%	100.0%
	46-50	度数	24	21	2	2	49
		年齢5の%	49.0%	42.9%	4.1%	4.1%	100.0%
	51-55	度数	36	31	0	0	67
		年齢5の%	53.7%	46.3%	.0%	.0%	100.0%
	56-60	度数	32	33	4	1	70
		年齢5の%	45.7%	47.1%	5.7%	1.4%	100.0%
	61-65	度数	44	22	5	0	71
		年齢5の%	62.0%	31.0%	7.0%	.0%	100.0%
	66-70	度数	56	36	13	4	109
		年齢5の%	51.4%	33.0%	11.9%	3.7%	100.0%
	76-80	度数	5	10	1	2	18
		年齢5の%	27.8%	55.6%	5.6%	11.1%	100.0%
	80-	度数	4	5	0	0	9
		年齢5の%	44.4%	55.6%	.0%	.0%	100.0%
合計		度数	293	268	28	9	598
		年齢5の%	49.0%	44.8%	4.7%	1.5%	100.0%

定期的にボランティア活動を行っている年代層は 56～70 歳であり、その年代と比べ若年層は「全く経験がない」人は少ないが、「何らかの経験がある」にとどまっている結果となった。



加表

			家族の理解				合計
			全く必要ではない	あまり必要ではない	まあまあ必要である	とても必要である	
年齢5	20-25	度数	3	7	19	11	40
		年齢5の%	7.5%	17.5%	47.5%	27.5%	100.0%
	26-30	度数	2	3	10	9	24
		年齢5の%	8.3%	12.5%	41.7%	37.5%	100.0%
	31-35	度数	1	2	19	22	44
		年齢5の%	2.3%	4.5%	43.2%	50.0%	100.0%
	36-40	度数	1	5	15	31	52
		年齢5の%	1.9%	9.6%	28.8%	59.6%	100.0%
	41-45	度数	0	3	10	32	45
		年齢5の%	.0%	6.7%	22.2%	71.1%	100.0%
	46-50	度数	0	0	20	29	49
		年齢5の%	.0%	.0%	40.8%	59.2%	100.0%
	51-55	度数	0	5	24	38	67
		年齢5の%	.0%	7.5%	35.8%	56.7%	100.0%
	56-60	度数	1	2	28	39	70
		年齢5の%	1.4%	2.9%	40.0%	55.7%	100.0%
	61-65	度数	2	1	18	53	74
		年齢5の%	2.7%	1.4%	24.3%	71.6%	100.0%
	66-70	度数	0	8	29	72	109
		年齢5の%	.0%	7.3%	26.6%	66.1%	100.0%
	76-80	度数	1	1	6	10	18
		年齢5の%	5.6%	5.6%	33.3%	55.6%	100.0%
	80-	度数	0	1	5	3	9
		年齢5の%	.0%	11.1%	55.6%	33.3%	100.0%
合計		度数	11	38	203	349	601
		年齢5の%	1.8%	6.3%	33.8%	58.1%	100.0%

31歳以上の年代は、ボランティア活動に「家族の理解」がとても必要であると考えている人が多く、特に41～45歳、61～65歳では7割の人がとても必要と考えている結果となった。

(3) 職種による違い

加算表

				V活動の経験			
				全く経験がない	何度か経験がある	月に1回程度活動している	週に1回以上活動している
職種	自営業 農林漁業	度数	4	13	6	0	23
		職種の%	17.4%	56.5%	26.1%	.0%	100.0%
	自営業 商工サービス業	度数	19	16	3	0	38
		職種の%	50.0%	42.1%	7.9%	.0%	100.0%
	自営業 その他	度数	27	13	1	3	44
		職種の%	61.4%	29.5%	2.3%	6.8%	100.0%
雇用者	管理職	度数	14	17	1	1	33
		職種の%	42.4%	51.5%	3.0%	3.0%	100.0%
雇用者	専門技術職	度数	34	59	1	0	94
		職種の%	36.2%	62.8%	1.1%	.0%	100.0%
雇用者	事務職	度数	29	28	3	0	60
		職種の%	48.3%	46.7%	5.0%	.0%	100.0%
雇用者	労務職	度数	35	29	1	0	65
		職種の%	53.8%	44.6%	1.5%	.0%	100.0%
主婦(主夫)		度数	87	57	7	4	155
		職種の%	56.1%	36.8%	4.5%	2.6%	100.0%
学生		度数	6	13	0	0	19
		職種の%	31.6%	68.4%	.0%	.0%	100.0%
その他無職		度数	38	18	4	1	61
		職種の%	62.3%	29.5%	6.6%	1.6%	100.0%
合計		度数	293	263	27	9	592
		職種の%	49.5%	44.4%	4.6%	1.5%	100.0%

ボランティア活動の経験を職種別にみると、学生は7割弱が「何度か経験がある」と回答している。また、比較的自営業よりも雇用者の方がボランティア活動経験がある結果となった。

加算表

			Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み				合計
			全く必要ではない	あまり必要ではない	まあまあ必要である	とても必要である	
職種	自営業 農林漁業	度数	1	2	9	11	23
		職種 の %	4.3%	8.7%	39.1%	47.8%	100.0%
	自営業 商工サービス業	度数	0	3	15	20	38
		職種 の %	.0%	7.9%	39.5%	52.6%	100.0%
	自営業 その他	度数	2	3	17	23	45
		職種 の %	4.4%	6.7%	37.8%	51.1%	100.0%
雇用者	管理職	度数	0	5	9	20	34
		職種 の %	.0%	14.7%	26.5%	58.8%	100.0%
雇用者	専門技術職	度数	1	1	28	64	94
		職種 の %	1.1%	1.1%	29.8%	68.1%	100.0%
雇用者	事務職	度数	0	0	19	41	60
		職種 の %	.0%	.0%	31.7%	68.3%	100.0%
雇用者	労務職	度数	0	1	21	43	65
		職種 の %	.0%	1.5%	32.3%	66.2%	100.0%
主婦(主夫)		度数	2	5	52	96	155
		職種 の %	1.3%	3.2%	33.5%	61.9%	100.0%
学生		度数	0	0	8	11	19
		職種 の %	.0%	.0%	42.1%	57.9%	100.0%
その他無職		度数	0	10	21	30	61
		職種 の %	.0%	16.4%	34.4%	49.2%	100.0%
合計		度数	6	30	199	359	594
		職種 の %	1.0%	5.1%	33.5%	60.4%	100.0%

ボランティアしたい人とボランティアを必要としている人を結ぶ仕組みが必要との設問への回答割合を職種別にみると、自営業に比べ、雇用者と学生のニーズが高い結果となった。

#### (4) 学歴による違い

加算表

			まちづくりである				合計
			全くそう思わない	あまりそう思わない	まあまあそう思う	とてもそう思う	
最終学歴	中学校	度数	5	18	36	29	88
		最終学歴 の %	5.7%	20.5%	40.9%	33.0%	100.0%
	高等学校	度数	8	73	134	43	258
		最終学歴 の %	3.1%	28.3%	51.9%	16.7%	100.0%
	短期大学	度数	4	15	33	17	69
		最終学歴 の %	5.8%	21.7%	47.8%	24.6%	100.0%
	4年制大学	度数	12	37	53	17	119
		最終学歴 の %	10.1%	31.1%	44.5%	14.3%	100.0%
	大学院	度数	0	5	6	0	11
		最終学歴 の %	.0%	45.5%	54.5%	.0%	100.0%
	その他	度数	1	17	28	9	55
		最終学歴 の %	1.8%	30.9%	50.9%	16.4%	100.0%
合計		度数	30	165	290	115	600
		最終学歴 の %	5.0%	27.5%	48.3%	19.2%	100.0%

ボランティアは「まちづくりである」というイメージについての回答割合を学歴別にみると、中学校卒業者が、「とてもそう思う」に多く回答している結果となった。

加算表

			V活動の経験				合計
			全く経験がない	何度か経験がある	月に1回程度活動している	週に1回以上活動している	
最終学歴	中学校	度数	51	30	4	3	88
		最終学歴の%	58.0%	34.1%	4.5%	3.4%	100.0%
	高等学校	度数	129	109	17	3	258
		最終学歴の%	50.0%	42.2%	6.6%	1.2%	100.0%
	短期大学	度数	28	38	3	0	69
		最終学歴の%	40.6%	55.1%	4.3%	.0%	100.0%
	4年制大学	度数	48	67	2	1	118
		最終学歴の%	40.7%	56.8%	1.7%	.8%	100.0%
	大学院	度数	10	0	0	0	10
		最終学歴の%	100.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
	その他	度数	28	23	2	1	54
		最終学歴の%	51.9%	42.6%	3.7%	1.9%	100.0%
合計		度数	294	267	28	8	597
		最終学歴の%	49.2%	44.7%	4.7%	1.3%	100.0%

ボランティア活動の経験について学歴別にみると、4年制大学卒業者は何度か経験がある人が多いものの、定期的に活動している割合は、中学校・高等学校・短期卒業者より少ない結果となった。

加算表

			職場の理解				合計
			全く必要ではない	あまり必要ではない	まあまあ必要である	とても必要である	
最終学歴	中学校	度数	7	2	22	52	83
		最終学歴の%	8.4%	2.4%	26.5%	62.7%	100.0%
	高等学校	度数	10	22	69	153	254
		最終学歴の%	3.9%	8.7%	27.2%	60.2%	100.0%
	短期大学	度数	0	8	12	47	67
		最終学歴の%	.0%	11.9%	17.9%	70.1%	100.0%
	4年制大学	度数	5	14	48	51	118
		最終学歴の%	4.2%	11.9%	40.7%	43.2%	100.0%
	大学院	度数	1	2	2	6	11
		最終学歴の%	9.1%	18.2%	18.2%	54.5%	100.0%
	その他	度数	1	6	16	30	53
		最終学歴の%	1.9%	11.3%	30.2%	56.6%	100.0%
合計		度数	24	54	169	339	586
		最終学歴の%	4.1%	9.2%	28.8%	57.8%	100.0%

ボランティア活動に「職場の理解」が必要との設問への回答割合を学歴別にみると、4年制大学・大学院卒業者よりも中学校・高等学校・短期大学卒業者の方が、とてもそう思うと回答している割合が高かった。

(5) 家族形態による違い

加算表

			V活動内容についての情報				合計
			全く必要ではない	あまり必要ではない	まあまあ必要である	とても必要である	
家族形態	単身世帯	度数	0	6	17	20	43
		家族形態の%	.0%	14.0%	39.5%	46.5%	100.0%
	夫婦のみ世帯	度数	2	5	53	60	120
		家族形態の%	1.7%	4.2%	44.2%	50.0%	100.0%
	夫婦と子ども世帯	度数	1	4	88	145	238
		家族形態の%	.4%	1.7%	37.0%	60.9%	100.0%
	三世帯家族	度数	0	2	52	70	124
		家族形態の%	.0%	1.6%	41.9%	56.5%	100.0%
	その他	度数	0	3	23	50	76
		家族形態の%	.0%	3.9%	30.3%	65.8%	100.0%
合計		度数	3	20	233	345	601
		家族形態の%	.5%	3.3%	38.8%	57.4%	100.0%

ボランティア活動についての情報必要との設問への回答割合を家族形態別にみると、夫婦と子ども世帯が「とても必要である」と回答している割合が高かった。

加算表

			家族の理解				合計
			全く必要ではない	あまり必要ではない	まあまあ必要である	とても必要である	
家族形態	単身世帯	度数	5	4	22	12	43
		家族形態の%	11.6%	9.3%	51.2%	27.9%	100.0%
	夫婦のみ世帯	度数	0	7	38	75	120
		家族形態の%	.0%	5.8%	31.7%	62.5%	100.0%
	夫婦と子ども世帯	度数	2	19	77	140	238
		家族形態の%	.8%	8.0%	32.4%	58.8%	100.0%
	三世帯家族	度数	2	7	40	75	124
		家族形態の%	1.6%	5.6%	32.3%	60.5%	100.0%
	その他	度数	1	2	26	47	76
		家族形態の%	1.3%	2.6%	34.2%	61.8%	100.0%
合計		度数	10	39	203	349	601
		家族形態の%	1.7%	6.5%	33.8%	58.1%	100.0%

ボランティア活動には家族の理解が必要との設問への回答割合を家族形態別にみると、単身世帯が他に比べ、とても必要であると回答した割合が低かった。

## 2 因子分析結果

### 結果 1

問 7 ボランティア活動に対するイメージ を主因子法(バリマックス回転)を用いて分析した。  
その結果、4つの因子が抽出された。

※因子名は仮称である

#### 因子 1 「肯定的イメージ」

- ・仲間づくりである
- ・まちづくりである
- ・楽しいものである
- ・自らを成長させるものである

#### 因子 2 「否定的イメージ」

- ・偽善的である
- ・おせっかいなものである
- ・時間的に余裕がある人が行うものである

#### 因子 3 「自発的イメージ」

- ・自らすすんで行うものである

#### 因子 4 「現実的イメージ」

- ・人手不足を補うものである
- ・社会にとって必要なものである
- ・思いやりがあるものである
- ・責任が重いものである

## 結果 2

問 10 ボランティア活動を行うために必要なもの について同様に分析した。

※因子名は仮称である

### 因子 1 「積極的ニーズ」

- ・ ボランティア活動についての情報
- ・ ボランティアしたい人を必要としている人を結ぶ仕組み
- ・ ボランティア活動について学べる場
- ・ ボランティア活動について拠点となる場所
- ・ ボランティア活動を行うきっかけ
- ・ とともに活動する仲間

### 因子 2 「理解へのニーズ」

- ・ 家族の理解
- ・ 職場の理解

### 因子 3 「お金・時間へのニーズ」

- ・ 交通費などの実費弁償
- ・ 活動への謝礼
- ・ 時間的なゆとり

### 3 相関係数

相関係数を算出した。

#### ※相関係数<sup>3</sup>

相関係数のプラスとマイナスの記号は関係の方向を表し、絶対値の大きさが関係の強さを表します。すなわち、2つの変数の一方が大きくなると他方も大きくなる正の相関関係では、関係が強くなるほど、値が0から1に近づきます。逆に、一方の変数の値が大きくなると他方は小さくなる負の相関関係では関係が強くなるほど0から-1に近づきます。

相関係数

		肯定的イメ ジ	否定的イメ ジ	自発的イメ ジ	現実的イメ ジ	積極的ニ ーズ	理解ニ ーズ	お金と時間 へのニ ーズ
肯定的イメージ	Pearsonの相関係数	1.000	-.153**	.197**	.380**	.343**	.180**	-.014
	有意確率(両側)		.000	.000	.000	.000	.000	.729
	N	602	598	602	601	597	588	599
否定的イメージ	Pearsonの相関係数	-.153**	1.000	-.031	-.021	-.091*	-.034	.279**
	有意確率(両側)	.000		.447	.611	.027	.418	.000
	N	598	599	599	598	595	585	596
自発的イメージ	Pearsonの相関係数	.197**	-.031	1.000	.235**	.216**	.091*	-.063
	有意確率(両側)	.000	.447		.000	.000	.027	.125
	N	602	599	603	602	598	589	600
現実的イメージ	Pearsonの相関係数	.380**	-.021	.235**	1.000	.358**	.222**	.096*
	有意確率(両側)	.000	.611	.000		.000	.000	.018
	N	601	598	602	602	597	588	599
積極的ニーズ	Pearsonの相関係数	.343**	-.091*	.216**	.358**	1.000	.315**	.123**
	有意確率(両側)	.000	.027	.000	.000		.000	.003
	N	597	595	598	597	598	584	595
理解ニーズ	Pearsonの相関係数	.180**	-.034	.091*	.222**	.315**	1.000	.130**
	有意確率(両側)	.000	.418	.027	.000	.000		.002
	N	588	585	589	588	584	589	587
お金と時間へのニーズ	Pearsonの相関係数	-.014	.279**	-.063	.096*	.123**	.130**	1.000
	有意確率(両側)	.729	.000	.125	.018	.003	.002	
	N	599	596	600	599	595	587	600

\*\*、相関係数は1%水準で有意(両側)です。

\*、相関係数は5%水準で有意(両側)です。

今回の調査においては、各因子間において、特筆すべき強い相関は認められなかった。

弱い相関が認められたイメージとニーズの関係

- ・ 肯定的イメージと積極的ニーズ
- ・ 否定的イメージとお金と時間へのニーズ
- ・ 自発的イメージと積極的ニーズ
- ・ 現実的イメージと積極的ニーズ及び理解ニーズ

<sup>3</sup> 2、再掲 坂井隆「範囲と標準偏差とは」『実務入門 図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター 2003 P252



#### 4 ノンパラメトリック検定の結果

ボランティア活動の経験を（1 全くない）と（2～4 何度か～週に1回以上ある）の2グループに集計しなおし、その2つで各イメージ、各ニーズに差があるのかを検証した。（1%水準）

分析方法はノンパラメトリック検定(Mann-Whitney 検定)により、2つのグループ間での差の有無を調べた。

ボランティア活動経験がある人は、全くない人と比べて肯定的なイメージが有意に高く、お金と時間へのニーズが有意に低いことがわかった。

##### 順位

	経…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	295	275.94	81403.50
	あり	304	323.34	98296.50
	合計	599		
否定的イメージ	なし	293	302.49	88629.00
	あり	303	294.64	89277.00
	合計	596		
自発的イメージ	なし	295	300.07	88522.00
	あり	305	300.91	91778.00
	合計	600		
現実的イメージ	なし	294	304.89	89637.50
	あり	305	295.29	90062.50
	合計	599		
積極的ニーズ	なし	294	299.33	88003.50
	あり	302	297.69	89902.50
	合計	596		
理解ニーズ	なし	288	299.67	86304.50
	あり	298	287.54	85686.50
	合計	586		
お金と時間へのニーズ	なし	292	317.42	92687.50
	あり	305	281.36	85815.50
	合計	597		

##### 検定統計量<sup>a</sup>

	肯定的イメー ジ	否定的イメー ジ	自発的イメー ジ	現実的イメー ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	37743.500	43221.000	44862.000	43397.500	44149.500	41135.500	39150.500
Wilcoxon の W	81403.500	89277.000	88522.000	90062.500	89902.500	85686.500	85815.500
Z	-3.387	-.568	-.069	-.690	-.117	-.934	-2.597
漸近有意確率 (両側)	.001	.570	.945	.490	.907	.350	.009

a. グループ化変数: 経験2択

問 8 参加したいボランティア活動 と各イメージ・ニーズの関係

①まちづくりに関する活動 に参加したいと考えている

に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差を検証した。

まちづくりに関する活動に参加したいと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージと積極的ニーズが有意に高く、否定的イメージが有意に低いことがわかった。

順位

	ま…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	425	284.12	120752.50
	あり	177	343.22	60750.50
	合計	602		
否定的イメージ	なし	423	315.21	133333.50
	あり	176	263.45	46366.50
	合計	599		
自発的イメージ	なし	426	304.93	129899.50
	あり	177	294.95	52206.50
	合計	603		
現実的イメージ	なし	425	294.64	125221.00
	あり	177	317.98	56282.00
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	423	287.20	121487.50
	あり	175	329.22	57613.50
	合計	598		
理解ニーズ	なし	414	293.59	121546.00
	あり	175	298.34	52209.00
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	424	302.97	128460.00
	あり	176	294.55	51840.00
	合計	600		

検定統計量<sup>a</sup>

	肯定的イメー ジ	否定的イメー ジ	自発的イメー ジ	現実的イメー ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	30227.500	30790.500	36453.500	34696.000	31811.500	35641.000	36264.000
Wilcoxon の W	120752.500	46366.500	52206.500	125221.000	121487.500	121546.000	51840.000
Z	-3.839	-3.407	-.748	-1.524	-2.724	-.334	-.551
漸近有意確率 (両側)	.000	.001	.455	.128	.006	.739	.581

a. グループ 化変数: まちづくりに関する活動

①まちづくりに関する活動に参加したいと考えている

に丸をつけた人とつけなかった人の、積極的ニーズを項目別に検証した。

まちづくりに関する活動に参加したいと回答した人は、「ボランティア活動について学べる場」と、「ともに活動する仲間が必要である」へのニーズが有意に高い回答結果であった。

順位

	ま…	N	平均ランク	順位和
V活動内容についての情報	なし	426	300.17	127874.00
	あり	177	306.40	54232.00
	合計	603		
Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	なし	426	300.73	128113.00
	あり	177	305.05	53993.00
	合計	603		
V活動について学べる場	なし	425	290.20	123335.00
	あり	177	328.63	58168.00
	合計	602		
V活動の拠点となる場所	なし	424	293.13	124288.50
	あり	175	316.64	55411.50
	合計	599		
V活動を行うきっかけ	なし	425	298.81	126994.50
	あり	177	307.96	54508.50
	合計	602		
ともに活動する仲間	なし	426	287.37	122419.00
	あり	177	337.21	59687.00
	合計	603		

検定統計量<sup>a</sup>

	V活動内容についての情報	Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	V活動について学べる場	V活動の拠点となる場所	V活動を行うきっかけ	ともに活動する仲間
Mann-WhitneyのU	36923.000	37162.000	32810.000	34188.500	36469.500	31468.000
WilcoxonのW	127874.000	128113.000	123335.000	124288.500	126994.500	122419.000
Z	-.460	-.321	-2.693	-1.638	-.652	-3.542
漸近有意確率(両側)	.645	.748	.007	.101	.515	.000

a. グループ化変数: まちづくりに関する活動

②地域安全・交通安全に関する活動に参加したいと考えている  
 に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差 →なし

③こどもの健全育成に関する活動に参加したいと考えている  
 に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差

こどもの健全育成に関する活動に参加したいと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージ・自発的なイメージ・現実的なイメージと積極的ニーズが有意に高いことがわかった。

**順位**

	こ…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	350	281.96	98687.50
	あり	252	328.63	82815.50
	合計	602		
否定的イメージ	なし	347	310.48	107737.50
	あり	252	285.57	71962.50
	合計	599		
自発的イメージ	なし	351	287.54	100926.00
	あり	252	322.14	81180.00
	合計	603		
現実的イメージ	なし	351	278.82	97864.50
	あり	251	333.22	83638.50
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	347	282.20	97924.50
	あり	251	323.41	81176.50
	合計	598		
理解ニーズ	なし	340	290.13	98644.50
	あり	249	301.65	75110.50
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	349	313.96	109571.00
	あり	251	281.79	70729.00
	合計	600		

**検定統計量<sup>a</sup>**

	肯定的イメー ジ	否定的イメー ジ	自発的イメー ジ	現実的イメー ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	37262.500	40084.500	39150.000	36088.500	37546.500	40674.500	39103.000
Wilcoxon の W	98687.500	71962.500	100926.000	97864.500	97924.500	98644.500	70729.000
Z	-3.282	-1.777	-2.808	-3.844	-2.898	-.875	-2.280
漸近有意確率 (両側)	.001	.076	.005	.000	.004	.382	.023

a. グループ 化変数: こどもの健全育成に関する活動

③こどもの健全育成に関する活動に参加したいと考えている  
に丸をつけた人とつけなかった人の、積極的ニーズを項目別に検証した。

こどもの健全育成に関する活動に参加したい人は、「ボランティアしたい人と必要としている人を結ぶ仕組み」と、「ボランティア活動について学べる場」へのニーズが有意に高い回答結果となった。

### 順位

こ...	N	平均ランク	順位和	
V活動内容についての情報	なし	351	291.09	102174.00
	あり	252	317.19	79932.00
	合計	603		
Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	なし	351	288.53	101274.50
	あり	252	320.76	80831.50
	合計	603		
V活動について学べる場	なし	351	279.20	97998.00
	あり	251	332.69	83505.00
	合計	602		
V活動の拠点となる場所	なし	348	286.06	99550.50
	あり	251	319.32	80149.50
	合計	599		
V活動を行うきっかけ	なし	350	300.26	105090.00
	あり	252	303.23	76413.00
	合計	602		
ともに活動する仲間	なし	351	296.39	104033.00
	あり	252	309.81	78073.00
	合計	603		

### 検定統計量<sup>a</sup>

	V活動内容についての情報	Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	V活動について学べる場	V活動の拠点となる場所	V活動を行うきっかけ	ともに活動する仲間
Mann-Whitney の U	40398.000	39498.500	36222.000	38824.500	43665.000	42257.000
Wilcoxon の W	102174.000	101274.500	97998.000	99550.500	105090.000	104033.000
Z	-2.090	-2.601	-4.056	-2.515	-.229	-1.033
漸近有意確率 (両側)	.037	.009	.000	.012	.819	.302

a. グループ化変数: こどもの健全育成に関する活動

④文化・芸術・スポーツに関する活動 に参加したいと考えている  
 に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差 →なし

⑤ 生涯教育に関する活動 に参加したいと考えている  
 に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差

生涯教育に関する活動に参加したいと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージ・現実的なイメージと積極的ニーズが有意に高く、否定的イメージが有意に低いことがわかった。

**順位**

	生…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	491	288.71	141756.50
	あり	111	358.08	39746.50
	合計	602		
否定的イメージ	なし	489	309.33	151262.50
	あり	110	258.52	28437.50
	合計	599		
自発的イメージ	なし	492	301.78	148477.50
	あり	111	302.96	33628.50
	合計	603		
現実的イメージ	なし	491	292.77	143751.00
	あり	111	340.11	37752.00
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	487	288.46	140478.00
	あり	111	347.95	38623.00
	合計	598		
理解ニーズ	なし	480	297.61	142851.00
	あり	109	283.52	30904.00
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	490	304.37	149141.00
	あり	110	283.26	31159.00
	合計	600		

**検定統計量<sup>a</sup>**

	肯定的イメ ジ	否定的イメ ジ	自発的イメ ジ	現実的イメ ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	20970.500	22332.500	27199.500	22965.000	21650.000	24909.000	25054.000
Wilcoxon の W	141756.500	28437.500	148477.500	143751.000	140478.000	30904.000	31159.000
Z	-3.835	-2.842	-.075	-2.631	-3.297	-.841	-1.174
漸近有意確率 (両側)	.000	.004	.940	.009	.001	.400	.241

a. グループ化変数: 生涯教育に関する活動

⑤ 生涯教育に関する活動 に参加したいと考えている

に丸をつけた人とつけなかった人の積極的ニーズについて、項目別に検証した。

生涯教育に関する活動に参加したい人は、「ボランティア活動内容についての情報」、「ボランティア活動について学べる場」へのニーズが有意に高い回答結果となった。

順位

	生…	N	平均ランク	順位和
V活動内容についての情報	なし	492	293.86	144580.00
	あり	111	338.07	37526.00
	合計	603		
Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	なし	492	296.22	145740.50
	あり	111	327.62	36365.50
	合計	603		
V活動について学べる場	なし	491	289.92	142353.00
	あり	111	352.70	39150.00
	合計	602		
V活動の拠点となる場所	なし	488	292.36	142670.50
	あり	111	333.60	37029.50
	合計	599		
V活動を行うきっかけ	なし	491	299.93	147265.50
	あり	111	308.45	34237.50
	合計	602		
ともに活動する仲間	なし	492	298.28	146752.00
	あり	111	318.50	35354.00
	合計	603		

検定統計量<sup>a</sup>

	V活動内容についての情報	Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	V活動について学べる場	V活動の拠点となる場所	V活動を行うきっかけ	ともに活動する仲間
Mann-WhitneyのU	23302.000	24462.500	21567.000	23354.500	26479.500	25474.000
WilcoxonのW	144580.000	145740.500	142353.000	142670.500	147265.500	146752.000
Z	-2.782	-1.991	-3.744	-2.456	-.516	-1.223
漸近有意確率(両側)	.005	.047	.000	.014	.606	.221

a. グループ化変数: 生涯教育に関する活動

⑥ 社会福祉に関する活動 に参加したいと考えている  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差

社会福祉に関する活動に参加したいと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージ・現実的なイメージと積極的ニーズが有意に高く、否定的イメージが有意に低いことがわかった。

順位

	社…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	379	276.84	104921.50
	あり	223	343.41	76581.50
	合計	602		
否定的イメージ	なし	377	323.40	121920.50
	あり	222	260.27	57779.50
	合計	599		
自発的イメージ	なし	380	291.46	110753.00
	あり	223	319.97	71353.00
	合計	603		
現実的イメージ	なし	380	286.18	108747.00
	あり	222	327.73	72756.00
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	377	285.50	107633.00
	あり	221	323.38	71468.00
	合計	598		
理解ニーズ	なし	368	292.25	107548.50
	あり	221	299.58	66206.50
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	377	305.62	115219.00
	あり	223	291.84	65081.00
	合計	600		

検定統計量<sup>a</sup>

	肯定的イメー ジ	否定的イメー ジ	自発的イメー ジ	現実的イメー ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	32911.500	33026.500	38363.000	36357.000	36380.000	39652.500	40105.000
Wilcoxon の W	104921.500	57779.500	110753.000	108747.000	107633.000	107548.500	65081.000
Z	-4.584	-4.405	-2.265	-2.873	-2.606	-.545	-.957
漸近有意確率 (両側)	.000	.000	.024	.004	.009	.585	.339

a. グループ 化変数: 社会福祉に関する活動



⑥ 社会福祉に関する活動 に参加したいと考えている

に丸をつけた人とつけなかった人の積極的ニーズについて、項目別に検証した。

社会福祉に関する活動に参加したいと考えている人は、「ボランティア活動について学べる場」へのニーズが有意に高い回答結果となった。

順位

	社…	N	平均ランク	順位和
V活動内容についての情報	なし	380	296.52	112679.50
	あり	223	311.33	69426.50
	合計	603		
Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	なし	380	298.47	113418.50
	あり	223	308.02	68687.50
	合計	603		
V活動について学べる場	なし	380	286.57	108896.00
	あり	222	327.06	72607.00
	合計	602		
V活動の拠点となる場所	なし	377	291.12	109752.50
	あり	222	315.08	69947.50
	合計	599		
V活動を行うきっかけ	なし	380	290.67	110456.00
	あり	222	320.03	71047.00
	合計	602		
ともに活動する仲間	なし	380	294.57	111937.50
	あり	223	314.66	70168.50
	合計	603		

検定統計量<sup>a</sup>

	V活動内容についての情報	Vしたい人とVを必要としている人を結ぶ仕組み	V活動について学べる場	V活動の拠点となる場所	V活動を行うきっかけ	ともに活動する仲間
Mann-Whitney の U	40289.500	41028.500	36506.000	38499.500	38066.000	39547.500
Wilcoxon の W	112679.500	113418.500	108896.000	109752.500	110456.000	111937.500
Z	-1.161	-.754	-3.004	-1.773	-2.215	-1.513
漸近有意確率 (両側)	.246	.451	.003	.076	.027	.130

a. グループ化変数: 社会福祉に関する活動

⑦ 保健・医療に関する活動 に参加したいと考えている  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差

保健・医療に関する活動に参加したいと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージ有意に高いことがわかった。

順位

	保…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	500	291.83	145916.50
	あり	102	348.89	35586.50
	合計	602		
否定的イメージ	なし	498	303.11	150947.00
	あり	101	284.68	28753.00
	合計	599		
自発的イメージ	なし	501	297.74	149169.00
	あり	102	322.91	32937.00
	合計	603		
現実的イメージ	なし	500	297.45	148723.00
	あり	102	321.37	32780.00
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	497	297.90	148055.00
	あり	101	307.39	31046.00
	合計	598		
理解ニーズ	なし	488	294.95	143933.50
	あり	101	295.26	29821.50
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	498	297.15	147983.00
	あり	102	316.83	32317.00
	合計	600		

検定統計量<sup>a</sup>

	肯定的イメー ジ	否定的イメー ジ	自発的イメー ジ	現実的イメー ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	20666.500	23602.000	23418.000	23473.000	24302.000	24617.500	23732.000
Wilcoxon の W	145916.500	28753.000	149169.000	148723.000	148055.000	143933.500	147983.000
Z	-3.051	-.997	-1.553	-1.286	-.507	-.018	-1.062
漸近有意確率 (両側)	.002	.319	.121	.198	.612	.985	.288

a. グループ化変数: 保健・医療に関する活動

⑧ 国際協力、国際交流する活動 に参加したいと考えている  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差 →なし

⑨ 男女共同参画社会形成に関する活動 に参加したいと考えている  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差

男女共同参画社会形成に関する活動に参加したいと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージが有意に高く、否定的イメージが有意に低いことがわかった。

### 順位

	男…	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	573	297.36	170387.00
	あり	29	383.31	11116.00
	合計	602		
否定的イメージ	なし	570	304.21	173398.50
	あり	29	217.29	6301.50
	合計	599		
自発的イメージ	なし	574	300.76	172633.50
	あり	29	326.64	9472.50
	合計	603		
現実的イメージ	なし	573	299.10	171385.50
	あり	29	348.88	10117.50
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	569	295.79	168302.50
	あり	29	372.36	10798.50
	合計	598		
理解ニーズ	なし	560	293.89	164577.00
	あり	29	316.48	9178.00
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	571	302.82	172910.00
	あり	29	254.83	7390.00
	合計	600		

### 検定統計量<sup>a</sup>

	肯定的イメ ジ	否定的イメ ジ	自発的イメ ジ	現実的イメ ジ	積極的ニーズ	理解ニーズ	お金と時間へ のニーズ
Mann-Whitney の U	5936.000	5866.500	7608.500	6934.500	6137.500	7497.000	6955.000
Wilcoxon の W	170387.000	6301.500	172633.500	171385.500	168302.500	164577.000	7390.000
Z	-2.624	-2.695	-.911	-1.528	-2.344	-.752	-1.479
漸近有意確率 (両側)	.009	.007	.362	.127	.019	.452	.139

a. グループ 化変数: 男女共同参画社会形成に関する活動

⑩ 環境保全・自然保護に関する活動 に参加したいと考えている  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差 →なし

⑪ 特に活動したい分野はないが、きっかけがあれば活動する  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差 →なし

⑫ 参加したくない  
に丸をつけた人とつけなかった人のイメージ・ニーズの差

ボランティア活動に参加したくないと考えている人は、そうでない人と比べて肯定的なイメージが有意に低く、否定的イメージとお金と時間へのニーズが有意に高いことがわかった。

### 順位

	参...	N	平均ランク	順位和
肯定的イメージ	なし	578	305.19	176398.50
	あり	24	212.69	5104.50
	合計	602		
否定的イメージ	なし	575	295.45	169881.50
	あり	24	409.10	9818.50
	合計	599		
自発的イメージ	なし	579	303.51	175730.00
	あり	24	265.67	6376.00
	合計	603		
現実的イメージ	なし	578	302.34	174751.50
	あり	24	281.31	6751.50
	合計	602		
積極的ニーズ	なし	574	301.82	173244.00
	あり	24	244.04	5857.00
	合計	598		
理解ニーズ	なし	566	296.06	167570.00
	あり	23	268.91	6185.00
	合計	589		
お金と時間へのニーズ	なし	576	296.59	170835.00
	あり	24	394.38	9465.00
	合計	600		

### 検定統計量<sup>a</sup>

	肯定的イメ ジ	否定的イメ ジ	自発的イメ ジ	現実的イメ ジ	積極的ニ ーズ	理解ニ ーズ	お金と時間 へのニ ーズ
Mann-Whitney の U	4804.500	4281.500	6076.000	6451.500	5557.000	5909.000	4659.000
Wilcoxon の W	5104.500	169881.500	6376.000	6751.500	5857.000	6185.000	170835.000
Z	-2.580	-3.221	-1.217	-.590	-1.616	-.809	-2.754
漸近有意確率 (両側)	.010	.001	.224	.555	.106	.419	.006

a. グループ化変数: 参加したくない

## 自由記述

- ボランティア活動の興味はあっても実際何から始めたら良いか、きっかけになるものが分かりません。今は私の子供達がボーイスカウトをやっているので一緒に参加させてもらったりしています。しかし、一個人としては何をどうやってボランティア活動に参加すれば良いのか、どんな活動なら自分にも参加させてもらう事ができるのか分かりません。何か身近なものを通してお知らせしてもらえたらと思います。無力ながら一人前の事を考えていますが自分が今まで育ててもらった地域や社会に、少しでも恩返ししていけたらと思っています。
- 今、高校等で「ボランティアを行う→成績が良くなる。だからボランティアをする」という実態があることを、大学の授業で学びました。ボランティアとは、誰に言われたからやるのではなく、自分から進んで行く、あるいは“やらせていただく”ものであると考えます。もし学校の現場で、成績のためにボランティアをやれという教育がなされているとしたら、4月から教員となる者として、とても問題であると思います。
- ボランティア活動の社会的地位を高める取り組みの必要性を感じています。
- 孫達の春休み、夏休み、冬休み、早帰宅など子供達だけで家に居る事をさせず見守る事で安心して親が仕事に励む事ができると感謝されています。しかしまわりでは協力や援助を受けることが難しいため子供をもつ事に不安だという話も聞きます。子供達がしっかりとし、物事がわかる様になってから、外に働きに出るのが一番よいのですが今の時代無理です。そんな人達のために定年すぎて経験豊富な主婦達が協力できる場所があればと思う。それはどのようにすればよいか。責任の問題、専門的知識、費用負担などあり誰もアクションを起こせない。このようなことでも、若い人達も生活の課題として自発的にアクションを起こさなければわからないし解決していかないと思う。そしてボランティアセンターの機能をもっと一般に知らせるべきと思うが…。
- 高校生の頃、青年ボランティアとして地域の子供会活動や障害児とふれ合うワークキャンプ等に参加しました。又、介護の仕事をしていた為、いろいろなボランティア活動に参加したり、受け入れ側からとしてもいろいろな人と出会いました。楽しい中にも身になるものがたくさんあったことを思い出しました。仕事、家事、育児に追われ、時間的に余裕がなく、なかなか参加出来ませんが、いつか機会があればと思います。子供と一緒に参加できるようなものがあればいいなと思います。自分の時間をつぶし、無理をしてまでやろうとすると続かないとも思います。交通費等の自己負担については、行政で負担してほしいなと思う事もありました。
- 職場で何度かボランティア活動（体験）をみていて、あれ？と思ったことがある。ひとつは、主に学校から派遣される中学生徒の中に、“本当にやりたくて来ているのか？内申書目的じゃ？”といった感じを持たざるを得ない方がいること。もうひとつは、そのようなボランテ

ィアをする方たちを、単なる無償労働者として扱ってしまうフシがあるのでは、と感じる点だ。前者は、前もって教育・説明をすればある程度の改善を見られよう。しかし、後者はボランティアをした方それぞれの考え方によるものが大きいため、当方がたとえ十分に検討したプログラムを用意していたとしても、それが結果的に“やってよかった”と受け止められているか不安が残る。終了後に送られてくることのある手紙等には感謝の言葉がつづられているが、本当は…？ともあれ、希望者・受け入れ側共に気分よくできるようにしたいものだ。

- 小学校から高校までに幾つかのボランティアを経験する機会がありました。最初は面倒だと感じることもありました。行くことにより得られる楽しさや達成感、そして周囲の人々との関わり合いという輪(ネットワーク)は大切なものだとして現在では感じるようになりました。これからも、ボランティア活動に積極的に参加していきたいと考えています。
- 現在、妻が週1回、老人施設でボランティア活動をしていて、家族で話し合いをしたりするので、ボランティアは人の為ではなくて、自分の為にとやるという気持ちが必要かと思う。無理なく長く続けることが大事だと思います。今は、仕事をしているので、退職すれば、何らかのボランティア活動をしたいと思う。
- 問10の設問「キ」のところで、私は「活動の謝礼」は「まあまあ必要である」と回答しました。しかし基本的には謝礼は必要のないものとも思っています。ではなぜそのような回答をしたのかと申しますと「ボランティアに参加したい」という意気込みはあるのに、個々人の経済的な事情などにより(例:経済的にギリギリで、仕事を休んでしまうと自分の収入が減るなど)踏みとどまってしまうという方も少なからずいると思うからなのです。「ボランティア」=「無償」という固定観念が日本人の多くにはあると思います。それはどこか「有償ボランティア」=「偽善的」なイメージが湧いてくるからではないのでしょうか。しかし、先程の様な志はあるのに経済面で踏みとどまってしまうような方がいては、その方にとって、また、受け手にとっても非常に残念なことであると思うのです。必要な人は受け取ればいいし、要らない人は返すか寄付でもすればいいと思っています。大切なのはボランティアの受け手が抱える問題点に、より多くの方が関心を持ち、一緒に考え、行動を起こし、解決してゆくことであると思います。「活動の謝礼」は、より多くの方に関心を持ってもらい、より多くの方に参加してもらうための一つの手段として存在すればいいと思います。「謝礼を受け取ること」=「偽善的」というイメージが変わればと思います。
- 大きな災害等のボランティアに行くのであれば仕事を休むなど職場の理解は必要であると思う。しかし、自分のやるべき仕事がある場合はそれを放置してまで行ってはいけないと思う。このアンケートを書くにあたって最近ボランティアとしてやってないな…と自覚しました。人の事を考える余裕が無くなってしまっているのです。自分とか家族がボランティアされているのを見て「私もやらねば…」と思うのが精一杯なのが現実です。だからボランティアをしてくれている人には頭をさげ、ありがとうございますと感謝するようにしています。いつかボランティアが必要な方に自分達の受けた分をお返ししたいと思います。子供の教科書に

ボランティアの事がよく載っています。本読みをしているのを聞いていて、こっちが勉強になります。自分の得意な分野にて役に立ちたいと思います。“やってあげる”ではなくて自然に手を差し伸べるような行動ができればと思います。無関心ではなく無償で働いてくれる行為に敬意をはらうことで、参加出来ないけれどもいつか参加するという意識を持ち続けようと思います。

- ボランティア行動を正直言ってあまり知りません。知ろうとも思いませんでした。自分の家庭を守ることで精一杯で他に目を向けることが出来ませんでした。しかしボランティアで活躍している人があるという事は、立派だと思います。その人達はそれを生きがいとしてやっている事だと思いますし、私はそれを強要されてやろうとは思いませんし、消極的な性格なので出来ません。世の人には恩は感じています。返した方が良いと思う心は持っています。
- 活動を一般の人に広く知ってもらう様に多く広報すると思う。  
自分たちの街が好きになれば、自然とボランティア活動しようという気持ちになれるので、街づくりが重要だと思う。  
ポイント制にする。
- 私は、中高ミッションスクールですごしました。教えの中の、“人間は皆平等である”という精神は今も尚自分の中に生きづいています。自然に手を差し伸べていきたいという気持ちを常に持ち続けられるのは、学生の時の経験があったからだと思います。目が見えない人も耳が聴こえない人も何ら変わらない一人の人間として、同じ仲間として考えられることは、ボランティアの精神として、とても大切だと思っています。そういう親の考えが、子ども達に引き継がれていくのだと感じています。幸いにも、自分の子どもは、保育園、小学校、中学校と養護を必要する子ども達と一緒に生活をしてきました。高校でも部活動を通して身障者の方々とかかわってこれました。自然にボランティア活動が出来た事は、子供達にとっても私達家族にとっても、良い経験が出来たと思っています。環境が、私達を育ててくれると思います。以前スキーへ行った時、身障者の方々と同じ宿になり「お母さん、どうすれば（どう助ければ）いい？」と聞いてきたので「たぶん片足がなくても自分の事は自分でやれると思うよ。でもお風呂はすべりやすいから、側でフォローできる気持ちは持っていて、その人にとって危なかったりする物があれば片付けてあげたらどうかなあ」と提案をしました。日本人のお国柄と言うか仏教が根強くある国は、ボランティア精神が育ちにくいと感じています。「やってあげる」「これをしたことで自分が得をする」そういう考えが根底にあるのではと思っています。私の母は、社会参加をしたいと言い、町作りや老人ホームのボランティアへ行っています。私も主人も、子ども達も母の背中をみているのだと思います。
- 住居区内の公共施設、公共物など、安全性の有無、清掃など気を使う事なども大切なことだと思う。身近な事に目を配っていくと、近所の方とのふれあいも生まれるのではと思う。危機管理、時にボランティア精神は必ず役立ち、活躍の場となる。防災組織とは異なり、個人の能力の向上は日々、周辺に目を配る習慣が大切だろう。

- 地域で生活している以上「お互いさま」の気持ちもち、ボランティアは必要なことだと思う。少しでもお役に立てれば自分のできる範囲で協力し合っていくのが社会生活の原点ではないかと思う。「ボランティア」の言葉を重みに感じることはなく人として、不自由をしている方の気持ちの支えになればいいのではないかと思う。
- ボランティア活動に参加した事は富士山清掃に3回位参加した事があります。他にはあまり参加した事はありませんが、これからは機会があれば参加したいと思います。自分としても年をとるにつれボランティアが必要になるかとも思いますので体が元気なうちに参加したいと思います。
- 今は昔みたいに近隣や地域、地区の結束みたいなものが減ってきていると思う。子供会、地区の活動内容も自分の子供のころに比べると積極的なものも感じず、地区、地域の行事などから深めていかないと、ボランティアまでなかなか活動への参加などは期待出来ないと思う。
- 高齢になり、足や腰に痛みを覚えるようになりましたのでボランティア活動はできなくなりました。
- ボランティア活動のネットワークがほしい。
  - ①ボランティア活動実施リストの検索  
いつ、どこで、何をのリストがいつも見れるようにしてほしい。
  - ②ボランティア活動事務局がほしい  
各年近かなゾーンの情報がいつも入手出来れば、気軽に参加出来ます。具体的にはボランティア問い合わせ窓口をもっとPR願えればと思う。
  - ③ボランティアセンターがあっても良いのでは  
情報 etc.の一括提供の部署（窓口）があれば好ましいです。特に年間ボランティア計画があれば最高な機構と考えます。
  - ④ボランティア参加のよろこびの情報が必要では  
参画の意欲が増します。参加の満足感がとぼしいです。参加して楽しかったにつきますと思います。
- やはり参加したい気持ちがあるのに家庭内の状況（父・母が高齢の為）により、家を空ける事に心配があり、なかなか参加できない現状です。もうひとつは、高齢（古い考え）な人間は、「家の草も取れないのに、ボランティアで公道のわきの花壇造りなど参加するなんて」と言われたこともある話を聞いた事があり、私事にもうなずけるなどと思った事があります。むずかしい面があるなどと思います。
- 子供（幼稚園程度）の頃からのボランティア精神を教育の場や親子の触れ合いを多く時間をとり社会貢献の意識を高めて欲しい。隣近所との付き合いが希薄になっている中、団体活動



での新たな発見が出来る可能性を教育に取り入れて欲しい。

- 現在託児サークルに所属し、未就幼児の託児をしたり、市でやっているひよこ教室、3才児学級の手伝いをしています。私の主人が自営業の為、家にいるときはパソコンで伝票入力をする仕事をやっているの、人に会う事が少ないので、外に出て、自分ができる手伝いをしています。小さい子供を見ていると、自分も元気になりとてもパワーをもらいます。自分の子供は、上は中1で、下は年中なので2才、3才児は、とてもなつかしくかわいいです。自分も楽しみながら月2、3回のペースでやっています。
- 日本ではまだまだボランティアに対する意識が低く、社会一般に深く根づいているものではありません。私をふくめてもっと社会に対して必要なものなのだという事を理解していくことが大切です。ともすれば偽善的だとかおせっかいな事だとか暇人なのではないかとか思われがちなので、その様な部分も理解を深めていかなければなりません。日本人全ての人の心の中にボランティアの意識が広がっていく事を期待します。



# ボランティア活動に関する 県民意識調査

## 《御挨拶とお願い》

静岡県社会福祉協議会では、県民のボランティア活動に対する意識を明らかにするとともに、活動啓発の基礎資料を得るため、このたび県民を対象に標記調査を実施することとなりました。

つきましては、各市区町の許可を得て住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の方へ、この調査票をお送りしていますので、御協力の程をお願いいたします。

なお、調査で得たデータ・個人情報につきましては、本会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき、本調査のみに使用し、他の目的で使用することはありません。

プライバシーポリシーは、ホームページ <http://www.shizuoka-wel.jp/> に掲載しています。

この調査にご協力いただける場合は、黒か青のボールペンでこの調査票にご記入いただき次第、同封の封筒でご投函下さい(最終締切：平成20年3月31日)。

突然のお願いで大変恐縮ですが、なにとぞ御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

社会福祉協議会とは、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和26年（1951年）に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき、全国、都道府県及び市区町村の全てに設置されています。運営の原則は、地域住民、社会福祉関係者等の参加・協力を得て活動することを大きな特徴とし、民間非営利組織として「自主性」、様々な分野の関係者、地域住民に支えられた「公共性」という二つの側面を併せもった組織です。

社会福祉協議会は、住民の福祉活動への参加を進めながら、現在まで一貫して地域福祉活動推進の中心的な役割を果たしています。

静岡県社会福祉協議会  
企画総務部企画課

TEL 054-254-5237

FAX 054-251-7508

E-mail [spcsw@shizuoka-wel.jp](mailto:spcsw@shizuoka-wel.jp)

あなた自身のことについてお伺いします。以下の設問に対して、当てはまる選択肢の番号に○を付けてください。

問1 性別

- ① 男性      ② 女性

問2 年齢

\_\_\_\_\_歳

問3 職種 (1つだけ○をつけて下さい)

・自営業

- ① 農林漁業  
② 商工サービス業  
③ その他 (                      )

・雇用者

- ④ 管理職  
⑤ 専門技術職  
⑥ 事務職  
⑦ 労務職

・無職

- ⑧ 主婦(主夫)  
⑨ 学生  
⑩ その他無職 (                      )

問4 最終学歴

- ① 中学校      ② 高等学校      ③ 短期大学      ④ 4年制大学  
⑤ 大学院      ⑥ その他 (                      )

問5 家族形態

- ① 単身世帯      ② 夫婦のみ世帯      ③ 夫婦と子ども世帯  
④ 三世帯家族      ⑤ その他 (                      )

問6 あなたのボランティア活動への関心について、お伺いします。

以下の設問に対して、最も当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

- ① 全く関心がない                      ② あまり関心がない  
③ ある程度関心がある                      ④ とても関心がある

問7 あなたのボランティア活動に対するイメージについて、お伺いします。

あなたはボランティア活動とはどのようなものだと思いますか。  
 下記の全ての設問に対し、記入欄に当てはまる数字を記入してください。

(記入する数字)

- 全くそう思わない → 1
- あまりそう思わない → 2
- まあまあそう思う → 3
- とてもそう思う → 4

(例) ボランティア活動とは、「ア 時間に余裕のある人が行うものである」という設問に対し、＜とてもそう思う＞場合は記入欄に4を記入してください。

		記入欄
ア	時間に余裕のある人が行うものである	
イ	思いやりがあるものである	
ウ	おせっかいなものである	
エ	自らを成長させるものである	
オ	楽しいものである	
カ	自らすすんで行うものである	
キ	責任が重いもの	
ク	生きがいになるものである	
ケ	社会にとって必要なものである	
コ	人手不足を補うものである	
サ	まちづくりである	
シ	仲間づくりである	
ス	偽善的である	

問8 あなたが参加したいと考えているボランティア活動は、どのような分野の活動ですか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① まちづくりに関する活動
- ② 地域安全・交通安全に関する活動
- ③ こどもの健全育成に関する活動
- ④ 文化、芸術、スポーツに関する活動
- ⑤ 生涯教育に関する活動
- ⑥ 社会福祉に関する活動
- ⑦ 保健・医療に関する活動
- ⑧ 国際協力、国際交流に関する活動
- ⑨ 男女共同参画社会形成に関する活動
- ⑩ 環境保全・自然保護に関する活動
- ⑪ 特に活動したい分野はないが、きっかけがあれば活動する
- ⑫ 参加したくない
- ⑬ その他 ( )

問9 あなたのボランティア活動の経験について、お伺いします。  
以下の設問に対して、最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- ① 全く経験がない
- ② 何度か経験がある
- ③ 月に1回程度活動している
- ④ 週に1回以上活動している

問10 ボランティア活動を行うために必要なものについて、あなたの考えをお伺いします。

あなたはボランティア活動を行うためには、どんなものが必要だと思いますか。

下記の全ての設問に対し、記入欄に当てはまる数字を記入してください。

(記入する数字)

- 全く必要ではない → 1
- あまり必要ではない → 2
- まあまあ必要である → 3
- とても必要である → 4

(例) ボランティア活動を行うためには、「ア ボランティア活動の拠点となる場所」が<とても必要である>とお考えの場合は記入欄に 4 を記入してください。

		記入欄
ア	ボランティア活動の拠点となる場所	
イ	ボランティアしたい人とボランティアを必要としている人を結ぶ仕組み	
ウ	ボランティア活動内容についての情報	
エ	ボランティア活動について学べる場(研修会など)	
オ	時間的なゆとり	
カ	交通費などの実費弁償	
キ	活動への謝礼	
ク	ボランティア活動を行うきっかけ	
ケ	ともに活動する仲間	
コ	家族の理解	
サ	職場の理解	

問 1 1 その他、ご意見等があれば、ご自由にお書きください。

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for the respondent to write their answers to the question above.

恐縮ですが、記入漏れがないかを、今一度、ご確認下さい。  
ご協力ありがとうございました。



# ふくしの図書館

## 静岡県社会福祉協議会福祉情報センター

見て、知って、活かしてみませんか？

福祉情報センターでは、福祉の図書資料についてのご相談・ご質問に以下のようなサービスに応じています。

○福祉関連図書資料の貸し出し

①図書（約 10,000 冊）

②定期刊行物（雑誌バックナンバーなど 67 種）

③その他資料（研究論文、調査報告書など約 2,000 冊）

④映像資料（ビデオソフト約 1,000 本）

○図書・視聴覚資料に関する相談

①福祉分野の資料の情報提供

②映像資料を活用した学習会の企画についての相談

電話・FAXによる相談も受け付けています。

（054-274-0820）

学習や講座、研修などに、ぜひご利用ください！

開館時間 火曜日～日曜日（午前9時～午後5時）

休館日 月曜日・祝祭日・毎月第4日曜日・年末年始（12/28～1/4）



**図書資料及び視聴覚の整備には、赤い羽根共同募金が役立てられています。**

静岡県社会福祉協議会福祉情報センター

〒420-8670 静岡市葵区駿府町 1-70

静岡県総合社会福祉会館 3階

TEL・FAX 054-274-0820

<http://www.shizuoka-wel.jp>

平成 21 年 4 月発行

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

〒420-8670

静岡市葵区駿府町 1-70

TEL 054-254-5237 FAX 054-251-7508